

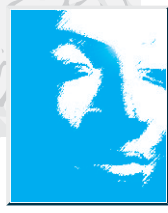


No. 20
2007 Spring

含松山
臨南寺

特集

お釈迦様ものがたり 13
禅宗は花の説法から始まった



一輪の蓮の花をつまんだことから

お釈迦様はいつも霊鷲山で説法をされてきました。

あるとき、説法の始まる前、お釈迦様に蓮の花をささげた女性がいました。居並ぶ弟子たちは、お釈迦様が今日のどのような教えを説いてくださるか、固唾を飲んで見守っていました。ところが、お釈迦様は何も言われず、無言のまま一輪の蓮の花をつまんでひねり、弟子たちに示されました。

ほとんどの弟子たちは、お釈迦様の動作の意味を理解できず、沈黙があたり

りを包みました。このとき、弟子たち

の中でただ一人、マハーカーシャパが

ふっとほえみしました。マハーカーシ

ヤパは、いつもぼろを身にまとって托鉢して歩き頭陀行第一とたたえられた人で、お釈迦様の入滅後は事実上の後継者といわれました。

それを見たお釈迦様は、いいました。「我に正法眼蔵、涅槃妙心あり。実相

無相、微妙の法門。不立文字、教外別伝。マハーカーシャパにこれを負託する」

私には、すべてを見通すことのでき

言葉やお経ではなく

「不立文字 教外別伝 直指人心 見性成佛」という言葉があります。これは禅宗の根本理念ともいえる言葉ですが、「仏の境地は、人の心にあり、自分の心を見つめることでその境地に達することができる。それは、文字や経典ではなく、心から心へ直接伝えられるものだ」という意味です。

お釈迦様が蓮の花をつまんで示されたとき、お釈迦様の思いがマハーカーシャパの心に伝わったのです。まさに「以心伝心」でした。言葉やお経でなく、

お釈迦様の悟りの心そのものが、水を器から器に移すように伝わったのです。水を移すとき、器同士は同じ大きさでなければ、水をそっくり移すことはできません。マハーカーシャパが、お釈迦様と同じように悟りの境地に達していたからこそ、お釈迦様の拈華の心をすぐに理解することができたのです。

このエピソードを「拈華微笑」といいます。「拈華」というのは、花をひねることです。禅宗はこの拈華微笑から始まったといわれています。お釈迦様からマハーカーシャパに伝えられた拈華微笑の心は、人の心から心へと伝えられ、六世紀になって達磨大師によって禅宗として完成されます。

達磨大師はその教えを中国に伝え、やがて栄西禅師、道元禅師によって鎌倉時代に日本へもたらされて、今の私たちがいるのです。



今日彼岸 菩提の種を蒔く日かな

芭蕉

暑さ寒さも彼岸までといわれます。一年中で最も過ごしやすい時期に行われる彼岸は、迷いの世界から悟りの世界へ思いをいたす修行の一週間でもあります。

布施（人が喜ぶことをする）、持戒（してはならないことをしない）、忍辱（苦しいことを辛抱する）、精進（希望に向かって努力する）、禪定（心を安定させる）、智慧（真実を見極める目をもつ）の六つの教えを、忠実に実行する一週間にいたします。

お彼岸の前には、仏壇のお掃除はもちろん、仏具などもきれいにしてお花も換えます。お彼岸の入り日は、お仏壇に団子を供えます。春分の日には、おはぎやぼた餅を供え、明けの日には、再びお団子を供えます。この間、お菓子や果物も供えます。

お墓参りは、墓石と墓地のお掃除から始めましょう。汚れやすい花立てなどは、念入りに掃除します。古くなった塔婆は合掌して抜き取りまします。お墓をきれいにしたら、新しい水、線香、故人の好物などを供えます。お坊さんに墓経をお願いして、心をこめて合掌礼拝します。なお、食べ物のお供えは、お参りのあとで下げるようにしましょう。

臨南寺では、三月十八日（日）二十三日（金）まで彼岸会写経会を行います、二十四日（土）午後一時から彼岸会施食会を修業いたします。彼岸会施食会では、亡くなられた方にお経を上げ、先祖供養の法要を行います。当日ご都合の悪い方は、事前ご回向をお受けいたしますので、お問い合わせください。皆様のお参りをお待ちいたしております。



臨南寺本堂

臨南寺は、全国的にも珍しく公園の中にあります。臨南寺の象徴ともいえる本堂は、旧本堂の老朽化に伴い、昭和四十九年（一九七四）に再建されました。前任職の故渡辺剛毅大和尚が、「新しい時代にふさわしい斬新なデザインの本堂を」と構想され、建設当初には批判する声もありました。

確かに外観は、半円形の屋根や柱状の壁が非常にユニークです。ところが、中に一歩足を踏み入れると、正面の祭壇、天井の荘厳、壁の羅漢像、床に敷き詰められた敷き瓦など、静謐で厳肅な禅宗の僧堂の雰囲気を見事にたたえています。

建築的にも注目を集め、竣工の翌年の一九七五年には、第十六回BCS賞（建築業協会賞）に輝いています。また、日本を代表する建築家村野藤吾氏審査による第一



回吉田五十八賞も受賞しています。今年二月には、第十六回BELCA賞のロングライフ部門での表彰の知らせが飛び込んできました。これは、社団法人建築・設備維持保全推進協会が選考するもので、わが国で唯一の既存建築物の表彰制度です。今年、臨南寺本堂のほか、日本武道館、神戸女学院校舎棟、旧古河鋳業若松ビルが選ばれています。

「寺院の本堂に現代的で独創的なデザインを採用し、地域住民にも広く開放しながら維持管理している臨南寺の姿勢を含め、優秀な物件と評価できる」受賞理由に書かれています。お寺に来られたときは、まず本堂にお参りいたしましょう。

住職 日誌

自分を見つめなおすよい機会に

春のお彼岸が近づいてまいりました。当山では、三月二十四日(土)午後二時から、彼岸会施食会を修業いたします。

その施食会の由来について少しお話ししておきましょう。

お釈迦様の十大弟子の一人で、お釈迦様の説法を一番多く聞いたとたたえられたアーナンダ。この人が、静かに坐禅をしていると、骨ばかりの体をした餓鬼が口から炎を吹き出しながら現れ、

「お前は三日後に命を失い、餓鬼の世界に落ちてしまうぞ」と宣告されてしまいます。

驚きあわてたアーナンダは、お釈迦様に相談しました。

お釈迦様は、

「明日、多くの餓鬼に食べ物や飲み物を施し、仏・法・僧の三宝に供養すれば、お前の寿命は延び、餓鬼道に落ちずにすむであろう」



臨南寺 住職 大澤正道

とおっしゃいました。

早速、アーナンダはお釈迦様のいわれるとおりに食べ物や飲み物を施し、三宝に供養しました。その結果、多くの餓鬼が苦しみから逃れることができ、アーナンダ自身も救われたといわれます。

このアーナンダの故事にならつて始められた施食会は、ご先祖や亡くなられた方を供養する法要ですが、あわせて、生きている私たちも「他人のことを思いやり、足ることを知って長生きできますように」と自分を見つめなおすよい機会にしたいものです。どうぞ、彼岸会施食会にお参りして、お釈迦様の心になれてみませんか？

お彼岸にお写経をなさいませんか？

一文字書きたびに仏様一体を刻むのと同じ功德があるというお写経。故人の冥福を祈り、先祖を供養し、浄福を授かります。

お写経は、大本山總持寺に納経させていただきます。随時受け付けておりますので、お気軽にお申し付けください。

甘茶をお釈迦様に注ぐのはなぜ？



お釈迦様が誕生されたとき、竜王が歓喜して香り高い甘露の雨を降らせ、お体を洗浴したという伝説に因んでいます。甘露になぞらえた甘茶を飲めば、悩みが消えて寿命が延び、お釈迦様と同じように成仏できるという信仰も生まれたようです。

マトリ合同法要 五月十三日(日)開催

がつしよう園マトリは、お墓の継承者がいなくても、永代にわたって供養してもらえる永代供養墓です。マトリ会員でなくても、合同法要には参加していただけます。関心のある方は、この機会にご参加ください。

臨南寺行事予定(三〜五月)

□ 彼岸会写経会

三月十八日(日)〜二十三日(金)
午前十時〜午後四時(受付は随時)
亡くなられた方やご先祖を偲びながら、一文字一文字心を込めて、お写経なさいませんか？ 費用千円

□ 春季彼岸会施食会

三月二十四日(土) 本堂にて
午後一時〜午後三時(受付は二時三十分まで)

亡くなられた方にお経をあげ、先祖供養の法要を行います。

□ 釈尊降誕会(花祭り)

四月八日(日) 午前九時〜本堂にて
お釈迦様が誕生された日を祝う法要です。お釈迦様が誕生されたルンビニー園には、美しい花がいっぱい咲き乱れていました。それを象徴して花御堂を作り、その中に小さなお盆を置き、誕生仏を安置して、甘茶をお釈迦様に注ぎます。ご参拝の皆様にも甘茶の振る舞いがございます。

□ マトリ合同法要

五月十三日(日) 午後二時〜
本堂で法話を聞いた後、マトリで冥福をお祈りしたり、あるいは生かされていることに感謝をささげたり、心静かな一日をお過ごしください。

手を合わせること



鈴木司保

縁あってこの臨南寺で働かせていただくようになってから、約一年半が経ちました。お寺で働くことになってから、手を合わせる機会が増え、般若心経も覚えることができました。

手を合わせれば合わせるほどいいと聞いてはいましたが、現実には、家にお仏壇も神棚もなく、たまに行くお墓参りで手を合わせるだけ。でも、今では毎朝・夕に本堂と白蛇様のお社に手を合わせ、日々の感謝とお礼を

申し上げ、たまにはお願い事もしながら・・・(笑)手を合わせています。不思議なことですが、毎日手を合わせていると、自然とご先祖様への感謝の気持ちも湧いてまいります。この臨南寺で働くことになったのも、ご先祖様に対する供養が足りなかつた私への導きだったのかもしれない。これからも手を合わせながら、生かされていることへの感謝の気持ちを忘れず、臨南寺で働かせていただくこうと思います。

晋山式のお稚児さんを募集します。



臨南寺では、十二月三日、晋山式を行います。

晋山式の「晋」は「進む」という意味で、「山」は山号を指し「お寺」のことです。つまり「晋山」は、お寺に進むということになります。晋山式は、新たに任命された住職(新命方丈といいますが)がお寺に入る儀式のことです。

本来なら、任命後すぐに晋山式を行うのですが、近年では、まず住職として内移りをし、改めて檀家の方々と相談して執り行うのが通例となっております。臨南寺でも、平成十六年に大澤正道が新任職に就任しておりますが、その晋山式を今年十一月に執り行うことになりました。

晋山式にはお稚児行列を行います。そこで、お稚児さんを募集します。五歳〜十歳の女児・男児を五十人、先着順で募集します。衣装は当山でご用意しますので、お気軽にお問い合わせください。

問合せ先・臨南寺「晋山式準備室」
電話 06-6698-1001

お気軽にどうぞ

早朝坐禅会

毎月第一土曜日 午前六時半〜
※一月・八月は、お休みさせていただきます。

写経会

毎月二十日 午前十時〜午後四時
写経料・千円

※いずれも事前のお申し込みが必要です。

編集後記

花粉症に悩んでいます。でも、杉の木を伐るのは間違いでしょう。悪いのは、アスファルトだらけにしたり、排気ガスだらけにした人間です。その証拠に、杉木立の田舎の住人より、都会の住人のほうが花粉症になっている人が多いのですから。

今号の内容はいかがでしたか？
ご感想をお寄せください。(M)

「ほ〜っと」20号

平成19年3月

編集・発行：りょうがりん 椋伽林「ほ〜っと」
編集室

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-32

☎ 0120-711-493

TEL 06-6698-1001

FAX 06-6697-3330

Eメール：rinnanji@abeam.ocn.ne.jp

ホームページ：http://www.rinnanji.com